

日本脳炎ワクチンが不足するため、優先を設けます

日本脳炎ワクチンには阪大微生物研究所のジェービックV®とKMバイオロジクス社のエンセバック皮下注用®がありますが、ジェービックV®に製造上の問題が発生し、製造が止まりました。現在製造は再開されていますが、ジェービックV®で4～12月まで出荷が止まる予定です。ジェービックV®が83%のシェアであった(2020年実績)ため、影響は大きく、日本脳炎ワクチンとしては、来年早々位まで供給不足が続きます。つきましては、厚生労働省の通達もあり、

①今からⅠ期の1回目・2回目の方

②来年早々に定期接種の期限を迎える方や、既に積極的接種が中断したため遅れている方。

※通常はⅠ期は3歳以上7歳6か月未満に、3回打ちます。Ⅱ期は9歳以上13歳未満に1回です。

を優先したいと思います。逆に優先されないのは、Ⅰ期の追加(3回目)あるいはⅡ期で定期接種の期限までに時間の余裕のある方です。なお、既に接種あるいはまだ流通しているジェービックV®に関しては、品質に問題はありません。

出典：一般財団法人阪大微生物病研究所HP『乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン「ジェービックV」の供給についてのお詫び 2021年1月15日』、厚生労働省健康局健康課長 健健発0115第1号『乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの定期の予防接種に係る対応について』

麻疹風しん(MR)ワクチン第2期は3月31日(水)まで

麻疹風しん(MR)ワクチンの第2期は3月31日(水)までです。年長さんは忘れずに接種しましょう。

木曜日の夕方のワクチン接種専用枠を再開中

毎週水曜日の午後1時半からに加え、ご好評であった木曜夕のワクチン専用枠を3月末まで再開しています(延長する可能性があります)。16:30～17:00に5名程度、さらにご希望の方が多ければ16:00～16:30にも5名程度の枠を作ります。お電話で前日までにご予約ください。

新型コロナワクチンの臨床試験における有効性と副反応

企業	ワクチン	種類	年齢	接種用量	発症者数/接種者数(%)		有効率%(95% CI)
					接種群	非接種群 ^a	
ファイザー	BNT162b2	mRNA	≥16	30μg(0.3mL) 2回(21日間隔)	8/18,198 (0.04%)	160/18,325 (0.87%)	95.0 (90.3-97.6)
モデルナ	mRNA-1273	mRNA	≥18	100μg(0.5mL) 2回(28日間隔)	5/13,934 (0.04%)	90/13,883 (0.65%)	94.5 (86.5-97.8)
アストラゼネカ	ChAdOx1	ウイルスベクター	≥18	LD ^b /SD	3/1,367 (0.2%)	30/1,374 (2.2%)	90.0 (67.4-97.0)
				SD ^c /SD	27/4,440 (0.6%)	71/4,455 (1.6%)	62.1 (41.0-75.7)

a ファイザーとモデルナは生理食塩水、アストラゼネカは髄膜炎菌ワクチン、b Low dose(低用量): 2.2×10^{10} ウイルス粒子、c Standard dose(標準用量): 5×10^{10} ウイルス粒子

新型コロナワクチンの臨床試験時の有効率と副反応の頻度です。

mRNAワクチンで疼痛の頻度が高く、全身反応の有害事象が高頻度に見られ、発熱が2回目に、特に若年群で頻度が高い傾向がありました。重篤な有害事象は、ファイザーの接種群で0.6%、対照群で0.5%、

モデルナで両群とも1%、アストラゼネカで接種群0.7%、対照群0.8%で差がありませんでした。出典元にはmRNAワクチンは分解されやすく、長期間細胞内に残存することはなく、またヒトの染色体に組み込まれることはないの、比較的安全性が高いことが予想されますと書かれています。

COVID-19 ワクチンの臨床試験における1回目接種後の有害事象の頻度

ワクチン	ファイザー BNT162b2		モデルナ mRNA-1273	アストラゼネカ ChAdOx1			
	16-55	56~	18-64	65~	18-55	56-69	70~
局所反応							
疼痛	83%(14%)	71%(9%)	86.9%(19.1%)	74.0%(12.8%)	61.2%	43.3%	20.4%
発赤	5%(1%)	5%(1%)	3.0%(0.4%)	2.3%(0.5%)	0%	0%	2.0%
腫脹	6%(0%)	7%(1%)	6.7%(0.3%)	4.4%(0.5%)	0%	0%	4.1%
発熱 ($\geq 38.0^{\circ}\text{C}$)	4%(1%)	1%(0%)	0.9%(0.3%)	0.3%(0.2%)	24.5%	0%	0%
全身反応							
倦怠感	47%(33%)	34%(23%)	38.5%(28.8%)	33.3%(22.7%)	75.5%	50.0%	40.8%
頭痛	42%(34%)	25%(18%)	35.4%(29.0%)	24.5%(19.3%)	65.3%	50.0%	40.8%
寒気	14%(6%)	6%(3%)	9.2%(6.4%)	5.4%(4.0%)	34.7%	10.0%	4.0%
嘔吐・嘔気 ^d	1%(1%)	0%(1%)	9.4%(8.0%)	5.2%(4.4%)	26.5%	13.3%	8.2%
筋肉痛	21%(11%)	14%(8%)	23.7%(14.3%)	19.8%(11.8%)	53.1%	36.7%	18.4%
関節痛	11%(6%)	9%(6%)	16.6%(11.6%)	16.4%(12.2%)	32.7%	16.7%	14.3%

COVID-19 ワクチンの臨床試験における2回目接種後の有害事象の頻度

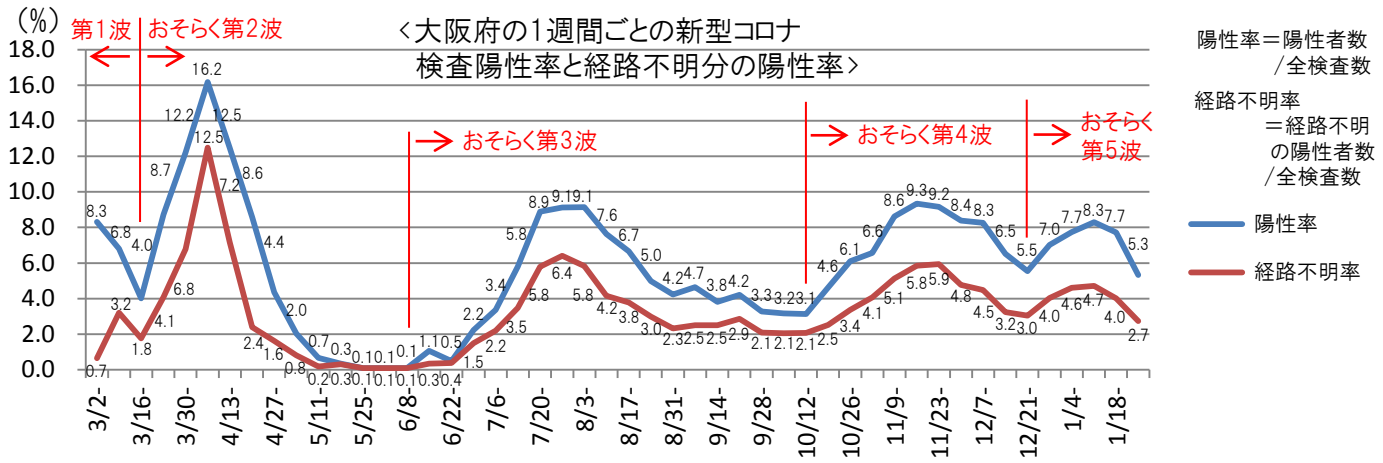
ワクチン	ファイザー BNT162b2		モデルナ mRNA-1273	アストラゼネカ ChAdOx1			
	16-55	56~	18-64	65~	18-55	56-69	70~
局所反応							
疼痛	78%(12%)	66%(8%)	90.1%(18.8%)	83.4%(11.9%)	49.0%	34.5%	10.2%
発赤	6%(1%)	7%(1%)	9.0%(0.4%)	7.4%(0.4%)	2.0%	0%	2.0%
腫脹	6%(0%)	7%(1%)	12.6%(0.3%)	10.8%(0.4%)	0%	0%	4.1%
発熱 ($\geq 38.0^{\circ}\text{C}$)	16%(0%)	11%(0%)	17.4%(0.4%)	10.2%(0.1%)	0%	0%	0%
全身反応							
倦怠感	59%(23%)	51%(17%)	67.6%(24.5%)	58.4%(19.6%)	55.1%	41.4%	32.7%
頭痛	52%(24%)	39%(14%)	62.8%(25.4%)	24.5%(19.3%)	30.6%	34.5%	20.4%
寒気	35%(4%)	23%(3%)	48.3%(5.9%)	30.6%(4.1%)	14.3%	10.3%	0%
嘔吐・嘔気 ^d	2%(1%)	1%(0%)	21.3%(7.3%)	11.8%(3.6%)	8.2%	20.7%	6.1%
筋肉痛	37%(8%)	29%(5%)	61.3%(12.7%)	46.9%(10.8%)	34.7%	24.1%	18.4%
関節痛	22%(5%)	19%(4%)	45.2%(10.5%)	34.9%(10.7%)	6.1%	17.2%	8.2%

()内は対照群における頻度。アストラゼネカについては、第Ⅲ相臨床試験での安全性に関する数値情報が公開されておらず、第Ⅰ/Ⅱ相のものを用いたため、接種群だけの頻度です。

d ファイザーでは嘔吐と吐のみ。

出典：一般財団法人日本感染症学会 ワクチン委員会HP『COVID-19ワクチンに関する提言(第1版) 2020年12月28日』

大阪府の新型コロナウイルス感染症陽性率、改善中

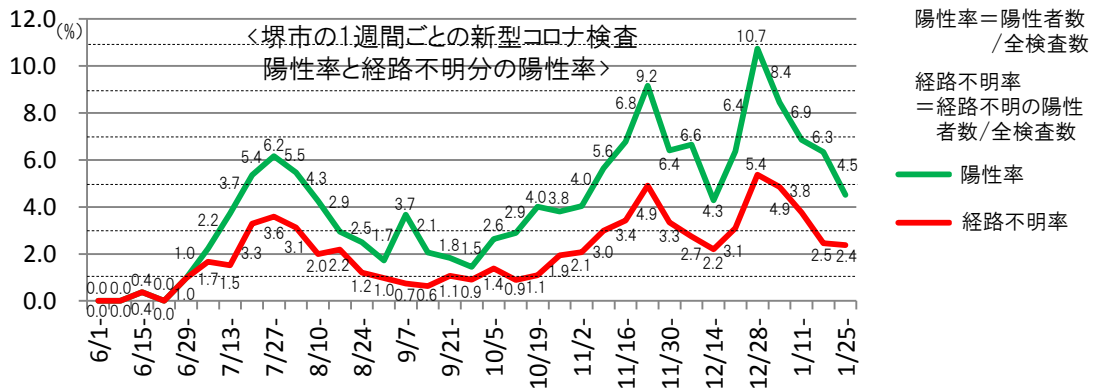


大阪府の新型コロナ検査陽性率はこのグラフの第5波で陽性率が8.3%まで悪化していましたが、陽性率・経路不明率ともに改善傾向です。
出典：大阪府HP『大阪府の最新感染動向 最終更新 2021/1/31』

堺市の新型コロナウイルス感染症陽性率の過去最悪は脱出

堺市の6月1日以降の週ごとの新型コロナ検査陽性率です12月28日からの週が過去最悪を更新しましたが、その後また改善してきています。

出典：堺市危機管理室 Twitter



お母さんの子宮頸がんが赤ちゃんの肺に移行

2名の小児がん(肺がん)の原因が、母親の子宮頸がんのがん細胞が混じった羊水を出産時に肺に吸い込んだためであることを、国立研究開発法人国立がん研究センターを中心とした研究チームが世界で初めて報告し、様々なメディアで取り上げられました。妊娠中に子宮頸がん(浸潤がん)と診断され、胎児の胎外生存が可能な週数に達している場合は、帝王切開で出産するのが通常で、今回の2例は妊娠中に子宮頸がんを診断されずに自然分娩となった特殊なケースのようです。

出典：国立研究開発法人国立がん研究センター、東京慈恵会医科大学『母親の子宮頸がんが子どもに移行する現象を発見』2021年1月7日報道向け、m3.com HP『母親の子宮頸がんが児の肺に移行、大きな衝撃 新潟大学・榎本隆之氏に聞く』2021年1月21日(木)配信

子宮頸がんワクチンのガーダシル®が日本の男性に適応拡大決定

先月号でお知らせしていました、子宮頸がんワクチンである『ガーダシル®』は2020年12月25日から日本でも男性に、そして新たに肛門がんの予防にも適応が拡大されました。女性にヒト・パピローマウイルスをうつす機会を減らすとともに、中咽頭がんや陰茎がん、尖圭コンジローマの予防にもなります。男性に適応拡大されたことで、接種後に大きな副反応があった場合に医薬品医療機器総合機構(PMDA)の任意接種としての補償を受けられるようになりました。

出典：MSD HP『ガーダシル®水性懸濁筋注シリンジ「効能又は効果」の追加、「用法及び容量」の変更が承認されました。』、Buzz Feed JAPAN HP『HPVワクチン男性接種を厚生労働相(原文ママ)が承認(2020年12月25日)』

車待機方式を継続中

風しん第5期定期接種の抗体検査・予防接種 受付中

2月・担当医の変更

16日(火) 赤澤→片桐